

貝塚市

貝塚市歴史展示館と市民庭園により
「バレーボールのまち 貝塚」を発信



市民庭園（花壇）

はじめに

今でこそ記憶も薄れ、若い人には知らない話となつてしまいましたが、10年、20年前までは、他所に行つて貝塚の話をする時は「バレーボールの…」といった前置きをするのが常でした。それで相手にも「ああ、あの貝塚ですか」と分かつてもらうことができ、そこからまた話が弾んだものです。

昭和39年（1964年）10月、日本におけるスポーツ史上のみならず、経済的・社会的にも国を挙げての一大事業となった東京オリンピックが開催されました。それまでも世界選手権などで常勝となつていた全日本女子バレーボールチームは、ニチボー貝塚（後のユニチカ）の選手が主体となつたチームで、「東洋の魔女」と謳われ、東京オリンピックにおいて宿敵ソ連を破り優勝の栄冠に輝いたことは、40代より上の年代の方なら当然ご存知でしょう。



市民庭園

平成17年10月1日、その「東洋の魔女」たちがかつて練習を重ねた地に、「貝塚市歴史展示館」と「市民庭園」がオープンしました。



貝塚市歴史展示館

背景と過程

平成17年4月、ユニチカ貝塚工場跡地の開発に伴い、貝塚工場の事務所として使われていた建物と工場の正面玄関を飾っていた庭園が、（株）ユニチカから貝塚市に寄贈されました。

市では、寄贈を受けたこれら施設を、ニチボー貝塚バレーボールチームの栄光の歴史を保存・展示するとともに、広く市民の憩いの場としても活用できる施設として、「貝塚市歴史展示館」及び「市民庭園」を開設しました。

なお、本施設のすぐ隣には、日本バレーボール協会（JVA）の貝塚ナショナルトレーニングセンターがあり、本年度からはJVAの事業の一環として、未来の五輪選手養成をめざした「バレーボールアカデミー」が開講され、全国から選抜された10人の女子中学生選手が地元中学校に通いながら日々練習を重ねています。

本市での位置づけ

本市は、貝塚ナショナルトレーニングセンターを

核とした関連事業を展開することにより、さまざまな人々が交流し、まちが活性化することを目的として、平成16年から「バレーボールのまち 貝塚」の推進事業に取り組んでいます。これにより、バレーボールを通じた市民参加の活動を展開し、市民の本市への愛着を高めるとともに、広く貝塚市の情報発信を図る考えです。

「市民庭園」については、かつてのニチボー（ユニチカ）貝塚工場の玄関口を飾った庭園の風情をできる限り残しながら、花壇や通路の整備を行い、市民が四季を通じて憩える庭園として広く開放するものです。また、「歴史展示館」では、施設のバリアフリー化をはじめ、展示スペースとしての改修を行い、ニチボー貝塚バレーボールチームの歴史とともに貝塚市の歴史についても展示しています。



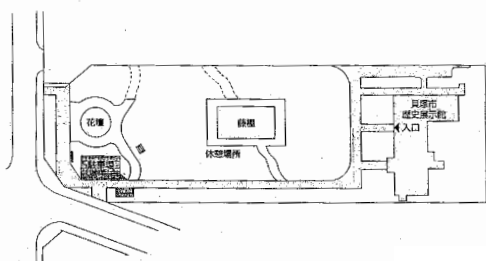
貝塚市歴史展示館内部

施設概要

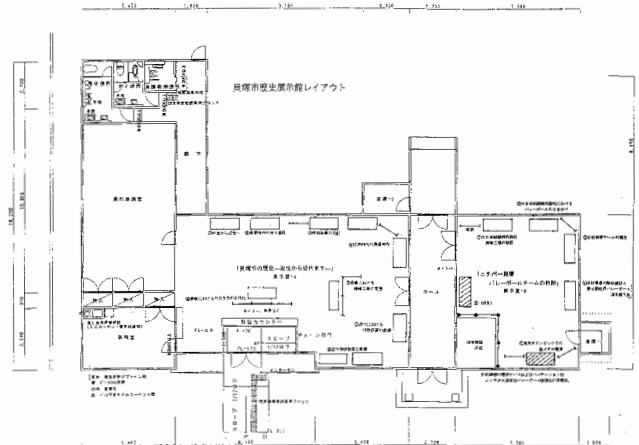
両施設はJR阪和線・東貝塚駅から西に約300mの距離に位置します。市民庭園は約4,800㎡の敷地内に、約2,300㎡の芝生とカイズカイブキやヒラドツツジ、キンモクセイ、ソメイヨシノなど約400本の樹木があり、春には見事な桜の花が咲き誇ります。

歴史展示館は約326㎡の床面積に展示室2室（展示室Aおよび展示室B）、事務所、準備室などを設

園内案内図



けています。展示室Aには「貝塚市の歴史～近世から近現代まで～」として、江戸時代の歴史資料や近代の学校教育資料、繊維産業関係品などを展示し、展示室Bには「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」として、東京オリンピックでの金メダル獲得に大きく寄与したニチボー貝塚女子バレーボールチームの関係資料を展示しています。



貝塚市歴史展示館レイアウト

「バレーボールのまち 貝塚」の推進に向けて

東京オリンピック以来、貝塚市民にとってバレーボールは、市民アイデンティティの中核ともいえる存在を担ってきましたが、平成12年にユニチカ・バレーボール部が解散し、市民の心からかつての栄光も忘れ去られようとしていました。しかし平成15年、ユニチカ体育館がJVAのナショナルトレーニングセンターとなり、全日本代表チームの合宿などが行われるようになったことから再び市民の心にバレーボールへの愛着が湧きあがってきています。

市では、貝塚市歴史展示館および市民庭園の開設を契機として、市民アイデンティティの一層の向上と、貝塚市の知名度アップに向けての取組を加速させていきます。

（問い合わせ先）

貝塚市歴史展示館：貝塚市教育委員会社会教育課文化財係
（0724-33-7126）

市民庭園：貝塚市建設部道路公園課公園緑化係
（0724-33-7342）